

発行所 新潟県中魚沼郡 中里村公民館 毎月1回15日 定価1部5円

# なかさと

人口	7,317 (-6)
男	3,600 (-2)
女	3,717 (+8)
世帯数	1,672 (-1)

8月1日現在  
カッコ内は前月との比較



## 二十才の雑感

大嶋 久子

二十才。成人。なんと素晴らしい言葉であろうか。なごろ格好よく言いたいのが、精神年齢が二十才に未だない私にとっての言葉は、非常に恐ろしい。なぜなら、二十年間両親や家族私を取り巻く人々の中で、ぬくぬくと育つて来、まだまだ子供のように、子供でいたいと思つていても、二十才と聞けば、世間ではもう見えてくれなく、立派な大人として見るからである。二十才とはいったい何であるのか。とにかく、長い人生においての一つのくぎりのようである。二十才になったからって何も変わりやしないだろうと思つていたが、確かに変わった事がある。私が突然、美人になったとか、頭が良くなった、などという事は全然有り得ないことだが、物を見る目や考え方が変わつて来たように思う。例えば、私が高校を卒業して就職してから、三年目になるが、もう会社にも、仕事にも慣れ、毎日の生活もだれて、気持ちに張りやなくなつて来た。しかし、成人式を終えてから、こんな事をしているんだらうか?一度つぎりの人生を無駄に過さないんだらうか?なんて考え始めた。今からだって、まだまだ間に合う。もう考えた

## 職員募集

中里村で次に職員採用試験を行います。

一 募集人員 若干名  
一 職種 一般行政事務職員  
一 受験資格 高校卒業以上の学力を有する者で昭和26年4月2日から昭和33年4月1日までに生まれた者(在学中で卒業見込者を含む)その他は新潟県町村人事事務組合の職員採用試験実施要綱による。

一 性別 不問  
一 試験方法  
○第一次試験(筆記)  
昭和50年10月19日(日) 場所 長岡市幸町2  
○第二次試験(面接)  
昭和50年12月上旬予定 場所 中里村役場

9月10日から9月25日まで申込書は中里村役場事務課で交付いたします。詳細については総務課へお問い合わせ下さい。

## 環境衛生の今昔

村山 武

早いもので、私が住みながら中里村を離れて十四年の歳月が流れた。この間、我が国の経済は高度成長を遂げ、国民の生活は大きく変化し、定めて社会環境も大きな変貌を遂げた。私が環境衛生にたずさわったのは、二十年前である。役場在職八年間、この間に最も長い期間で、最も精力を注いで奉仕した仕事はやはり環境衛生の仕事であった。私は常に地方末端の自治体の仕事の中で最もやりがいがある仕事は、全ての住民に平等に、しかも直接する事のできる仕事だと考え、衛生係と公民館の社会教育の仕事に最も情熱を感じた。今、中里村の衛生自治会に、吉原正平会長の下で立派な成果をおさめており、先般の本紙でも紹介した。井之川保健課長の指導を得ているだけに、水もさらぬ布陣でゴミ戦争に立ち向い、山間地の谷間や林の中のゴミ退治を見事なしたげた。都市内の住み難組織の中でも、この実績は高く評価されている。

実は、自慢するわけではないが、この衛生自治会の結成については、私が衛生係の時に組織づくりを行ったのである。あれは小柳産業課長が青年会長のときだった。私は青年会幹事として長く同氏の補佐役をこためたが、環境衛生の組織づくりには、この青年会の組織が先ず動く必要があるとして、小柳会長を説得し、青年会の別組織として発足させた。その後婦人会や部落に呼びかけ、全村的な組織にきりかえていったのは二三年後の事である。当時、私は、衛生係と青年会会長の両方を兼ね、部落へ奉仕会に出かけた回数も数えきれない程多い。今のようには超運動手当とか、残業手当などもつかない時代であり、ただ自分の情熱だけを頼りに、毎夜、部落懇談会にのぞんだ。当初は役場の職員が一人、農家の畜舎、便所を背負い、式噴霧器を肩に、焼けつくような春の陽ざしをあびて、芋沢から律沢まで、徒歩でD、D、T散布に歩いた。商工会の江村事務局長や井之川保健課長と共に、第一線の実働部隊として一週間の日程でまわった。故井ノ川友一氏が課長の時だった。前の事である。

## 県大会で優勝

田沢中陸上部

去る七、八日の両日、県陸上競技場で開かれた第六回新潟県中学校選抜総合体育大会陸上競技で、田沢中の杉谷清之(三年)荒屋、赤沢浩吾(三年)山崎の両君が三種競技、百M障害でそれぞれ優勝、又、杉谷君は砲丸投げで、赤沢君は走幅跳びで二位に入賞するという輝かしい成績をおさめた。中学生の県大会優勝は、村内では勿論はじめての事。二人とも、大会で勝つ自信はなかった、というものの、指導に

を通じての生きた社会教育の実践、これくらいのものであるうか。私は今考える。役場の職員としては落伍者であったが、八年間の役場での若き時代の修業は無駄なものではなかったと確信している。人間は、いかなる職業につきようとも、最善をつくし、何事かを成しとげんとする満足感があればそれでよい。生き甲斐とはそのようなものでないだろうか。愛する故郷の山河、その自然の美しさを生かし、保つ事が我々の子孫に対する義務であるとするれば、環境衛生の事業にたずさわる者の使命の重大さを更なるが痛感せざるにはおれない。

## 人生往来

◎産声  
氏名 父の名 部落  
山崎 定一 茂 宮中  
樋口 百恵 寿治 栢原  
南雲香余子 芳栄 田中  
大口 勝治 繁栄市 小原  
山田 智彦 正治 高道山  
松沢 竜介 勝英 山崎  
樋口 隆子 正夫 通り山

◎遷居  
高井 弘美 秀一 市之越  
山崎 康仁 氏一 小原  
◎昇天  
氏名 年令 部落  
山田 乙松 三三 宮中

## 中里文芸 八月投稿

◎評  
百M障害 13秒4  
(参考記録)

◎評  
山崎の昔の晴着雨柱  
泥児  
寂子  
海活人  
玉泉  
夕立ちや隣村まできて晴れる  
土用明け近し病舎も去る予告  
さどう柵目に日に重し梅雨上る  
夏草や上威一戸が胸をさす  
おのえ  
大泉  
芒月  
老翁の長き午睡の夢の中  
追風  
鳴石  
カウ

## 昭和51年歌会始

お題は「坂」  
ときままる。

お題の坂(坂)とは、のぼり又はくだりのある道のことだが、歌句には地名としての坂道、あるいは抽象的に、例えば「人生の坂」などとしてよみ込むことも差し支えありません。

◎詠進要領  
〔自作の歌で一人一首、未発表のものに限る。〕  
〔用紙は半紙とし毛筆で自書す。〕  
鈴木 朝子 正 重地  
日本 直樹 英夫 桂  
富井 弘美 秀一 市之越  
山崎 康仁 氏一 小原  
◎昇天  
氏名 年令 部落  
山田 乙松 三三 宮中

6月27日より貸出中の新25190津南の自動車庫(ナンバ)を返すので、使用できません。

羽織を着てつめばもるき羽根こぼす 涼子  
夢のちりかいておのが身となりぬ 栄山  
體肥して祈る気持で蛙を去る 独山  
編笠に老いを包んで盆踊り 時習

